

令和5年度

学校推薦型選抜試験問題

保健福祉学部 小論文
保健福祉学科

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子（6ページ）には、解答用紙（2枚）及び下書き用紙（2枚）が挟み込んであります。試験開始の合図があったら、直ちに中を確かめ、印刷や枚数の不備などがあった場合、監督者に申し出なさい。
- 3 問題冊子の間に挟み込んである解答用紙を取り出して、すべての解答用紙の所定欄に受験番号を記入しなさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙の所定欄に記入しなさい。
- 5 句読点は、1字と数えなさい。
- 6 試験室で配付された問題冊子及び下書き用紙は、退出時に持ち帰りなさい。

このページは白紙です。

このページは白紙です。

課題文を読み、後の問いに答えなさい。

【課題文】

東京から函館に移住して20年。気候、食、文化の豊かな函館の大ファン、と
いろいろなところでお話ししています。2020年には、その豊かさをさらに強く
感じるようになりました。ゆったりとした時間の流れはまた、人々とのつながり
を可能にします。

新型コロナウイルス感染症の拡大で、2020年にできなかったことはたくさん
ありました。1年前から準備していた、海外の人たちとの研究会や、国内外の学
会への参加も断念しました。会食、外食の回数も格段に減りました。その一方
で、予定になかった新しいこと、できるようになったこともあります。大学の授
業がすべてオンラインになったことで、必要に迫られ、新しいツールを使えるよ
うになりました。授業の内容を見直し、新しい方法で実施することができまし
た。

人と会えないという急激な環境の変化は、私たちの生活や仕事、そして心に大
きな圧力をかけ、新しい環境への適応を促しました。国内外でもリモートワーク
やオンライン会議、講演会が始まりました。

13年間続けてきている市民活動の「はこだて国際科学祭」は、これまで市内
各所で実施してきましたが、2020年はオンライン開催となりました。そこには
予想を超えた多くの困難がありました。いままでオンライン会議システムを使っ
たことのない人や、ネットで配信される動画を見ることのなかった高齢の方々
に届ける方法を考えることから始まりました。困難を乗り越えることを可能にし
たのは、新たな出会いと学びたいという人々の思いでした。

やがて高校などでオンライン会議システムを利用し始めたこともあり、高校生
や先生方もネットでの参加に慣れてきて、グループ活動など様々に工夫した手法
が出てくるようになりました。きっと日本中、いや世界中で^{いやおう}否応なく、ネット活
用について学ぶ必要ができたと同時に、新たな可能性を見出したに違いありませ
ん。

一方で「デジタルデバイド」の問題もあります。インターネットなどの情報
通信技術を利用できる人とできない人との間の格差のことです。情報弱者と呼ば

れる人たちは、経済的にも困窮している場合が多いのです。タブレットを配布されても、ネット環境が家にないため、使用できないといった小中学生の例もありました。またネット環境が脆弱な状態でオンライン授業を受けた学生たちの中には、途中で講義の映像や音声途切れたり、システムの不具合から講義に参加できなかつたりした人も多く存在しました。

ネットや機材の問題だけではありません。オンライン授業は、ネットにつながる環境なら、どこからでも授業を受けられ、習熟度に合わせて教材を繰り返し見ることでもでき、しかも通学の時間もかからないのでいいことづくめというわけではなく、私たちの心に影響を与えることもわかってきたのです。普段の学校での生活を考えてみてください。一人で学んでいるようですが、それだけではありません。勉強が長続きする一番の秘訣は、一緒にやる仲間がいること。まわりの人の気配を感じ、ちょっと隣をのぞいてみたり、話しかけたりすることもできる。そんな環境があったのです。

現代ではネット環境は、電気や水道と同様な社会インフラ（私たちの生活に欠かせない基盤となる設備やサービス）です。健康で文化的な生活を送る権利は、すべての人にあるべきものです。子どもたちには、オンラインでも等しく教育を受ける権利があります。この権利を保障するのは大人の責務です。地域によってネット環境に差がないようにすること、パソコンやタブレットを自由に使える環境にすること、困ったときには助けてくれる人がいることも重要でしょう。場合によってはそれが学校の先生でなくても、信頼のおける地域の人でも、ネット越しに聞くことができる環境でも良いでしょう。

2020年から21年は、人と会うことが制限された状況が続く中、そのつながりの意味が際立って見えてきた年でした。何が自分の生活や人生にとって重要なのか、自分が他の人のためにできることは何か、デジタル技術を使って何か新しい活動やつながりを持たないかなど、いつもと異なる状況になったときに、新しいアイデアが生まれています。

プロのクラシックの演奏家たちは、演奏会がすべて中止になり、アンサンブル（合奏）の練習もできないという制限された状況で、音楽、職業、生活について深く考えることになりました。その結果生まれたのがリモートでのアンサンブルでした。この話はテレビのドキュメンタリーとして放映され、書籍『孤独のアン

サンプル—コロナ禍に「音楽の力」を信じる』（村松秀，中央公論新社）にもなるほど話題になりました。

買い物や外食，人と交流する機会が減り，生活のリズムを保つことが難しくなった中，芸術のような文化的活動は，心を安寧に保ち，豊かにしてくれるエッセンシャルなものといえるでしょう。

最近，日本だけでなく世界にある美術館や博物館が，オンラインで展示物を公開するようになってきています。なかには，バーチャルリアリティー技術を使って，まるでその会場にいるような感覚で鑑賞できるものがあります。作品を拡大したり，背後や底面から見たりできるという意味では，リアルではできない体験です。今後は作品だけでなく，作者の存在やその生きた時代，鑑賞場所に居合わせた人の気配や息づかいが感じられるような AI 技術が登場してくるかもしれません。

（美馬のゆり『AIの時代を生きる—
未来をデザインする創造力と共感力』岩波書店，2021.一部改変）

【問1】 「デジタルディバイド」とは何か，文中の語句を用いて 25 字以上 30 字以内で抜き出さない。

【問2】 筆者が述べているオンライン授業の長所と短所について，具体的に 120 字以上 150 字以内でまとめなさい。

【問3】 保健医療福祉分野で利用されている情報通信技術の具体例を明示し，その技術と人間との間に生じた新たな関係について，あなたの考えを 400 字以上 500 字以内で述べなさい。